

JENESYS2018 ASEAN 派遣プログラム第 11 陣の記録

テーマ：日本文化・技術交流

派遣国：マレーシア

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、日本の高校生および引率者計 18 名がマレーシアへ派遣され、派遣国における、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019 年 3 月 5 日～3 月 13 日の日程で「日本文化・技術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、政府関係者との面談、日本の ODA サイトの視察を行い、日本と派遣国との関係、及び日本の国際貢献に関する知見を深めました。そして、学校交流において、同世代の青年との友情を育むとともに、日本や日本の文化、技術の説明、実演を行い、日本の魅力を発信しました。そして、ホームステイを行い、地域の人々と交流し、相互理解を深めました。また、マレーシアで開催された JENESYS 同窓会に参加し、マレーシアの同窓生とも交流をしました。帰国前の報告会では、プログラム中の発見と、プログラム経験を活かしたアクション・プラン（帰国後の活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】長野県篠ノ井高等学校 18 名

【交流時の日本事情の説明概要】長野県の地域概要、特色、特産品、日本の文化（アニメ、漫画）、ハイテクノロジー、経済、外交の強み

実演披露：ソーラン節、信濃の国ダンス、華道、書道

2. 日程

- | | |
|---------|--|
| 3月5日(火) | 【オリエンテーション】 成田国際空港出発
クアラルンプール国際空港到着 |
| 3月6日(水) | 【表敬訪問】在マレーシア日本国大使館
【表敬訪問】マレーシア・青少年スポーツ省
【文化視察】クアラルンプール市内（プトラジャヤ、ミレニアム
モニュメント、首相官邸、プトラモスク） |
| 3月7日(木) | 【学校交流】 エス・エム・ケー・スリ・ピンタン・スラタン高
校
【企業視察】ロイヤル・セランゴール（ピューター製品工場） |
| 3月8日(金) | 【学校交流】 エス・エム・ケー・ヤコブ・ラティフ高校
【ホームステイ】（クアラルンプール市内）
【ホームステイ】 |

- 3月9日(土) 【ホームステイ】
 【文化視察】クアラルンプール市内（関廟帝、スリ・マハ・マリ
 アマン寺院、セントラルマーケット、ムルデカ・スクエア）
- 3月10日(日) 【文化視察】スルタン・サラフディン・アブドゥル・アジズ・シャ
 ー・モスク、バトゥー洞窟、国立博物館
 【JENESYS同窓会】於：ホテル イスタナ クアラルンプール
- 3月11日(月) 【訪問・講義の聴講】JICAマレーシア事務所
 【ODAサイトの視察】チュンク ムナウィー小学校
 【ワークショップ】
- 3月12日(火) 【成果報告会】、【関係者との歓送会】
 クアラルンプール出国
- 3月13日(水) 帰国

3．プログラム記録写真

	
3月6日【表敬訪問】 在マレーシア日本国大使館	3月6日【表敬訪問】青少年スポーツ省
	
3月7日【学校交流】 セリ・ピンタン・セラタン高校	3月7日【企業視察】 ロイヤル・セラングール
	
3月8日【学校交流】 ヤコブ・ラティフ高校	3月9日【ホームステイ】

	
3月10日【文化視察】スルタン・サラフディン・アブドゥル・アジズ・シャー・モスク	3月10日【JENESYS 同窓会】
	
3月11日【ODA サイトの視察】 チュンク ムナウィー小学校	3月12日【成果報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

高校生（篠ノ井高等学校）

私はマレーシアで、文化の違い、食べ物の違い、その他、様々なものに驚きました。日本という狭い国におさまっているだけじゃいけないと感じました。世界にはまだまだたくさんの良いところがあります。それを自分の目で見て吸収していく、これは自分の成長に欠かせないものだと思います。マレーシア人はとても積極的であり、その積極性が功を奏して若者の動く国、国の若々しさ、民族の共存がなされているのだと思いました。青年スポーツ省で学んだ若者のリーダーシップの大切さは学校交流で実感しました。先生の指示に従うのではなく、生徒自身が考えて行動してもてなしてくれた姿勢にとっても感動しました。日本では先生の指示に従い行動することが多い中、マレーシアでは「積極的」であることがキーとなり、意見交換が多く行なわれて、自分たちが動いていく、そんなプロセスがあるのではないかと思います。このようなことが学べて良かったです。

高校生（篠ノ井高等学校）

最も印象に残っていることは学校交流です。高校2校と小学校1校に訪問し、多くの人とふれ合うことが出来ました。熱心な歓迎を受け、現地の方のパワーに元気をもらいました。またマレーシアの高校生が日本への関心が高かったことに驚きと同時に誇りに思いました。日本人よりも海外の人のほうが、日本はすごいと考えている人が多いと実感しました。今回、海外から日本を見ることができて良かったです。また、マレーシアの学生は勉強や興味のあることへの姿勢がすばらしく、見習わなくてはならないなと思いました。話したり伝えようとする気持ちで、こんなにもコミュニケーションができ

るんだと実感し、うれしかったです。学校で知り合った友達とはインスタグラムでつながり、帰国後も交流しています。私たちのインスタグラムを通して日本の生活や文化を知ってほしいと思います。

高校生（篠ノ井高等学校）

大使館では現在のマレーシアについての話を聞くことができ、その中で、ルック・イースト政策や日本語教育についての話も聞くことができました。実際に、マレーシアには日本の店舗や日本語を話せる人が多く、日本への関心の高さに驚きました。ホームステイは、最初は英語でしか会話できないことを不安に思っていたいましたが、たくさん会話ができて良かったです。ホストファミリーが日本へ行ったことがある人たちで、日本文化についてもよく知っていました。長野のことはよく知らなかったけれど、インターネットで調べて話してくれ、「長野に行ってみたい」と言ってくれて嬉しかったです。ホストファミリーと市内の森へ行きました。高いビルがいくつもある中に、こんな風に自然があるというのは日本ではまず見ることが出来ない光景で、マレーシアの人々が自然を重要視し、木々を大切にしていることが感じられました。朝食でマレーシアの家庭料理を食べましたが、マレー系の料理でも日本人の口に合うものは多いことを発見しました。青年スポーツ省では、アクション・プランのアイデアとなった「若者の力を活かす活動」について学ぶことができました。青年会議や若者の日など若い人たちが自ら活動を行っていることが印象に残りました。これは高齢者社会の日本に足りていないもので、見習うべき点だと感じました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

高校生（エス・エム・ケー・ヤコブ・ラティフ高校）

一番印象に残ったことは、日本の高校生のパフォーマンスを通して日本の文化を教えてくれたことです。また、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行ったことは本当に素晴らしかったです。私が今まで見た中で一番良いプレゼンテーションであったと思います。この交流プログラムを通して私が学んだことは日本文化です。私は将来いつの日か、日本に行きたいと思いました。

高校生（エス・エム・ケー・スリ・ピンタン・スラタン高校）

私が一番印象に残った日本の高校生の発表内容は、他国の開発援助である日本のODAについてでした。また、日本の高校生は活気に満ち溢れていました。パフォーマンスは良く演じられていて、とてもおもしろかったです。日本の高校生が英語を話し、理解していたことと、彼らがマレーシアの文化や言葉に敬意を払ってくれていたことが、印象的でした。日本人の生徒たちはとても友好的で、私たちもこのプログラムを通して、文化についてなど多くの日本の情報を得ることができました。自分の日本語力も少しですが改善されました。日本の生徒たちがまたマレーシアに来て会えることを希望しています。

高校生（エス・エム・ケー・スリ・ピンタン・スラタン高校）

篠ノ井高校の生徒たちがソーラン節を踊ったときには驚くと同時にどれだけの筋肉を使いこのダンスを踊っているのだろうと考えただけで目がくらみました。日本人はとても力強いと思いました。その他に、彼らは日本の流行曲「未来へ」(Kiroro)を美しいハーモニーで歌いましたが、私は日本の生徒たちは音楽の授業で美しく歌うことを習っ

ているのだと思いました。音楽の授業は私たちの学校では行われなくなりました。私は日本の高校生が、英語でコミュニケーションすることはおそらく難しいだろうと予想していました。彼らは言葉を多く語らず、少ない英語単語と私の知っている日本語を交えながら話をする方法を心得ていました。また、彼らは私の日本語を正してくれました。母国語以外でコミュニケーションができたことに、私は達成感でいっぱいでした。

6．参加者の対外発信

	
学校交流（エス・エム・ケー・ヤコブ・ラティフ高校）で、篠ノ井高校から、ソーラン節のパフォーマンスを実施、交流会を盛り上げました。	ビルが立ち並ぶ中、緑が多くて、驚きました。

7．報告会での帰国後のアクション・プラン発表

		
私たちのアクション・プランは5つあります。 「Food」食育を広めると同時に日本へハラルマークの普及を図る事です。日本を含む全世界の人々（主に東南アジアや開発途上国など）へ、栄養バランス、食の風習の改善策、ハラル食について、ウェブサイトの開設、インターネットの利用（サイト、ブログ、SNSなど）を通じてプレゼンテーションします。 「Environment」3R やチャレンジ 800(廃棄物削減プログラム)を促進させることです。マレーシアに行って改めて3Rの大切さを学んだので、文化祭や学校行事の機会を利用して、地域の人々に、3Rについて動画等(SNS)で発信していきます。 「Hospitality」日本とマレーシアの良さを融合させたよりよいおもてなしの実現します。私たちがマレーシアのおもてなしを受けて、日本にはない良さを感じたので、東京オリンピックまでに、日本国内で広める活動をします。 「Youth Power (NYC: National Youth Conference)」若者が社会づくりに参加することが必要であり、他国から学ぶことが大切だと感じたので、私たちは、世界の若者や学生に対し、長野県で海外の高校生とともに会議（私たちが今の社会で何をすべきか）をします。学校行事の開催に合わせて、私たちのプログラム体験を発表します。 「校内の教育活動、郊外の課外活動の取り組み」この活動を実施します。学校行事の開催に合わせて、私たちのプログラム体験を発表します。		

[illegible]